

平成 28 年度分大船渡市教育委員会事務の点検・評価結果に対する意見

当委員会では、市教育委員会事務局から提出のあった資料に基づき、主要事務事業、基本事業及び施策の順に協議を行いました。委員から出された意見等は、以下のとおりです。

1 主要事務事業

番号	事務事業名	意 見
1-1-3	博物館展示事業	本事業は、各種展示を通して学習機会を提供しようとするものであり、基本事業2「学習機会の充実」に組替えた方がよい。
1-2-1	生涯学習情報提供事業	「意図」は、事業名と事業内容から、「必要な学習情報を入手する」ということではないか。従って、「成果指標」は、情報提供の状況がわかる指標に改めるべきである。 また、いきいきカレンダーの発行、市広報への掲載にとどまらず、多様な情報伝達方法の検討が必要である。
1-2-2	成人大学講座事業	より多くの人々に受講していただけるよう、講座の対象年代を絞るとか、開催時間帯を夜間にするとか柔軟な対応について検討してほしい。
1-2-3	博物館教育普及事業	子どもたちの理科離れを防ぐためにも、積極的に博物館に足を運んでもらうような取組について、積極的に検討すべきである。
1-3-2	生涯学習リーダー養成事業	成果指標が意図と不整合であり、見直しが必要である。
1-3-3	芸術文化活動支援事業	対象は、市民芸術祭担当の社会教育指導員。意図は、市民の芸術文化活動を支援するということで、成果指標について、支援の度合いを表すものに見直しが必要である。
2-1-3	教育設備、教材等整備事業	目標値も 26.5%と低く、これで教育ができるのか疑問である。充足率の向上に努力してほしい。現状で「A」というのはどうか。成果指標「理科等備品充足率」及び進捗度評価「A」の見直しが必要である。
2-2-1	少人数指導事業	年度によって雇用される非常勤講師の人数が変わる中、単に指導時間数を指標とするのは理解できない。成果指標の再設定が必要。
2-2-2	知能検査・学力検査実施事業	児童生徒の受検は当然なのに、それを成果指標とするのは理解できない。成果指標の再設定が必要である。
2-2-3	特別支援教育支援員配置事業	延べ指導日数では成果をみることはできない。成果指標の再設定が必要である。

番号	事務事業名	意 見
2-3-1	教育相談員配置事業	成果指標「不登校の割合」ではわかりにくい。教育相談を受けた児童生徒数のように、わかりやすい指標にすべきと考える。
2-3-3	児童乳幼児ふれあい交流促進事業	成果指標「②参加した児童の割合」は、単に、「①参加児童数」を市内全児童数で割ったにすぎない。不要。子どもたちのアンケート調査をして、満足度を指標にすることも必要ではないか。
2-4-1	児童生徒各種健康診断事業	各種健康診断の受診は当然のこと。それを指標するのは理解できない。「有所見者のうち通院した者の割合」としてはどうか。
2-4-2	学校給食事業	学校給食は、栄養士が献立を考えて提供しているものであり、栄養摂取量を成果指標にしているのは妥当性を欠く。「残飯量」など他の成果指標を考えた方がいい。
2-5-2	「総合的な学習の時間」推進事業	成果指標「②児童生徒 1 人あたりの体験学習回数」は、単に、「①体験学習を実施した回数」を市内全児童生徒数で割ったにすぎない。不要と考える。外部講師の人数ではどうか。
3-1-1	家庭教育学級開催事業	参加者の意識調査だけでは物足りない。家庭教育学級開催数も指標となり得ると考える。
3-2-1	成人式開催事業	成果指標「②新成人の成人式出席率」は、単に、「①成人式に出席した新成人の数」を対象人数で割ったにすぎない。①を削除し、②だけを残していいのでは。
4-1-1	体育施設等管理運営事業(指定管理)	成果指標に、カメリアホールや三陸公民館の維持管理と同様、維持管理に係る指標(施設不具合件数、それへの対応率)を追加した方がいい。
4-2-1	一般財団法人 大船渡市体育協会運営支援事業	当該事業は、市として体育協会の円滑な運営を支援するもの。体育協会の立場で評価するのではない。 したがって、対象は、大船渡市体育協会。意図は、円滑に運営できるようにする。事業内容は、運営支援に必要な補助金等の支出。成果指標は、市からの補助金額とするのが適切であると考え。
4-2-2	スポーツ推進委員設置運営事業	対象、意図及び成果指標の再設定が必要と考える。 対象は、スポーツ推進委員。 意図は、市民のスポーツ・レクリエーション活動を支援する。 成果指標は、スポーツ推進委員に係わるスポーツイベント数。
5-1-2	博物館展示事業(再掲)	成果指標は、博物館利用者数ではなく、事業内容から、企画展の開催回数や、企画展への来場者数が望ましい。

2 基本事業

基本事業名	意 見
1-1 学習環境の充実	成果指標「②自主学習団体数」は、「意図」と整合しないことから削除すべき。 成果指標「生涯学習のための施設が整備されている」と答えた市民の割合の目標値が低く、加えて、実績値が伸びていないことから、進捗度評価「A」を見直すべき。
1-2 学習機会の充実	よりよい市民芸術祭とするため、そのあり方の研修、アンケートに書かれた意見・要望への対応、他市等の視察等が必要である。
1-3 学習活動の促進	「基本事業の進捗度とその理由等」欄について、郷土芸能まつりは形を変え、継続実施している。詩吟に取り組む中学校もあり、表現の見直しが必要である。
2-3 豊かで強い心の育成	成果指標「③不登校児童の割合」と、「④不登校生徒の割合」はわかりにくいので削除した方がいい。
4-1 スポーツ環境の整備・充実	「体育施設等管理運営事業」の成果指標で設定しており、その上位の基本事業の成果指標「①スポーツ・レクリエーション施設利用者数」を削除した方がいい。 スポーツ施設のうち、市民体育館の改築、400mトラックを望む市民が多いと思う。計画的な整備を望む。
4-3 スポーツ・レクリエーション活動の推進	成果指標「③日頃から継続して何かスポーツをしている」と答えた市民の割合は施策レベルの指標である。この割合を高めるために、スポーツ環境の整備・充実、スポーツ・レクリエーション団体の育成支援、スポーツ・レクリエーション活動の推進という、3つの基本事業を実施していると理解でき、基本事業での成果指標としない方がいい。
5-2 伝統文化の継承	指定文化財の指定基準や手順の明確化を急いでいただきたい。

3 施策

施策名	意 見
3 青少年健全育成の推進	青少年の健全意識の啓発は基本事業「市民意識の啓発」で把握済みであり、対象から「地域住民」、意図から「青少年の健全育成に関心を持つ」、さらに、成果指標から、「②青少年健全育成に関心を持っている」と答えた市民の割合を削除した方がいい。
5 地域の歴史・文化資源の継承	成果指標の目標数値の再設定が必要。「郷土の伝統文化や文化財を大切にしたい」と答えた市民の割合の目標値が 80.0%というのは低い。幼い頃から郷土愛の醸成に努め、100%を目指すとした方がいい。

<その他>

- ・ カメリアホールの利用では、駐車場不足が課題。近隣により多くの駐車場確保をお願いしたい。
- ・ 市立博物館は、図書館とともに当市の知の拠点。現在地は市のはずれで、市民利用には不適。将来的には、市の中心部への整備を検討してほしい。